



MIDOSUJI
NAGAHORI

発行：NPO法人御堂筋・長堀21世紀の会 発行人：小室 孝裕
事務局：TEL:06-6241-0505 E-Mail:npong21@hyper.ocn.ne.jp

創立40周年を迎えて

当会は、1982年2月に会員企業33社で「長堀21世紀計画の会」として発足し、本年で創立40年を迎えました。その間、2001年には法人格を取得、2013年には「NPO法人 御堂筋・長堀21世紀の会」と改称し、一貫して当会エリアの「賑わい創出」「活性化」「価値向上」を目的に活動を続けております。この間の代表的な活動成果としましては、

- ①発足当初から早期開通の陳情を続けてきた地下鉄・長堀鶴見緑地線が1996年に開通。また、全長約730メートルの地下街「クリスタ長堀」、地下4階3層自走式の地下駐車場が開業しました。
- ②美化活動では、「たばこ市民マナー向上」の啓発活動により長堀通の堺筋・四ツ橋筋間が「喫煙禁止地区」に指定されました。また、1984年7月から現在まで継続している清掃活動は、

昨年、大阪市長から「美化運動功労者表彰」を受けました。

- ③当会含め御堂筋沿道街づくり3団体からの提案が反映される形で、大阪市から2019年3月に「御堂筋将来ビジョン」が発表されました。

本年10月から実施の「御堂筋チャレンジ2022」では、整備済区間での将来形、整備予定区間での利活用の実験を通じて、官民連携によるストリート運営のしくみづくりに取り組んでいます。当会エリア並びに御堂筋には、2025年の大阪・関西万博の成功や2037年のパークストリート構想の実現など未来に繋がる重要な役割があると考えております。それを果たすには、地元にお住まいの方、地元で商売や企業活動をされる方、エリアで働かれる方、街を訪れる方など様々な人々のニーズや思いを汲み取り、その内容を形に繋げることが大切です。

安全で快適に、そして豊かに過ごすことの出来る持続可能な都市・エリアの創出に繋がられるよう会員皆様一丸となって進めてまいりましょう。



理事長

小室 孝裕

道のグレードアップは、街の活性化の要

当会は1982年の創立当初から、地下鉄7号線（長堀鶴見緑地線）の延伸工事に伴うインフラ整備と長堀通の公園化の提言・陳情を続け、大阪市のご英断で地下の交通ネットワーク、長堀通を国の定めるシンボルロードとして整備して頂きました。

この事業は大成功をおさめ、御堂筋・長堀周辺には1996年にチャンネル、続いてルイヴィトン、カルティエなど約50店舗のスーパーブランドが次々と出店。スーパーブランドの集積は、我々が目指すステータスエリアの形成に大きく影響し、年間約600億円の新しい商圈を生み、地価は新橋交差点周辺でバブル前の4倍以上に、家賃も坪単価が銀座を抜いて日本一高いビルも出現するほどに高騰。市の固定資産税収も20%

増収し、この事実から、私は道路整備は、街の活性化の要であることを学びました。長堀通の四ツ橋筋・堺筋間の約860メートルでこれだけの効果を上げたのだから、「御堂筋でやれば、大阪経済にもっと貢献できる」という意見が大勢を占め、当会は2002年から活動の軸足を御堂筋に移し、御堂筋を「車の道から人の道へ」と提言を続けて今年で20年。大阪府・市、国交省などのご指導を受け、特に香川県知事になられた池田豊人様には近畿地方整備局長時代から、当会の活動に深いご理解とご支援を賜り、皆様のおかげで『ほこみち制度』が制定され、「道を変えれば、街が変わる」が、決して夢物語でない現実の時代に突入しました。

40年の街づくりは、私の人生を懸けたライフワークです。次世代に続く若い人たちが、夢を持って活躍できる大阪になるまで、御堂筋の街づくりが遅滞なく、粛々と進んでいくことを衷心より祈念しております。



相談役（元・理事長）

成松 孝



香川県知事

池田 豊人

みちが変われば街がかわる

NPO法人御堂筋長堀21世紀の会の40周年誠にありがとうございます。

私は2016～2018の2年間、長堀通り沿い(玉造から西へ300m)に住んでおりました。ここは元々「堀」だったと聞いて驚きました。そして、皆様方のお力で心齋橋周辺の長堀通り及びその沿道のにぎわいのできていることを知り、感動したことを思い出します。

私は国土交通省在職中、静岡市で勤務したことがあります。JR静岡駅北口前は国道1号線が通っており、駅とまちとの人の移動は大半が地下鉄となっておりました。そのため人口70万人の静岡市の駅前には人影が少なく、どこかさびしくにぎわいに欠ける景色でした。そこで、まず駅前広場やその周辺を人が最優先の空間に模様替えしました。現在、静岡駅北口前には、にぎわいのできつつあります。今後この国道1号を平面横断することができれば、画期的に駅前のにぎわいが生まれると思います。

さて、御堂筋のプロムナード化がはじまりました。車中心であった御堂筋が南から人中心の通りに変身します。

完成すれば、難波から淀屋橋までの4kmの一大プロムナードが完成します。シャンゼリゼが2.5kmくらいですので、世界一のプロムナードとなるでしょう。

「みちが変われば街がかわる。」NPO法人御堂筋・長堀21世紀の会の皆さまの力で世界から見学に、そして観光で見に来る新しい「御堂筋」をつくって下さい。

40周年おめでとうございます。



大阪府副知事

田中 清剛

創立40周年を祝して

「NPO法人 御堂筋・長堀21世紀の会」が創立40周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。また長年にわたり、大阪の街づくり、魅力向上にご尽力賜り、心より感謝申し上げます。

40年前の長堀通には、既設の地下駐車場がありましたが、容量不足になってきたことに加え、入庫待ち行列が地上の交通流を阻害するという事態が頻繁に発生していました。また、地下鉄7号線の導入も物理的に難しい状況でした。そうした中、貴会の熱心な街づくり活動や提案もあり、「長堀通改造計画」が進められました。地下駐車場を一旦撤去して地下4層の構造物を建設し、そこに地下街や地下駐車場、地下駅を設置するというスケールの大きい画期的な事業です。

一方、御堂筋は、沿道地権者の方々のご協力を頂きながら昭和12年に完成し、以来、時代のニーズに合わせて沿道の建物・街並みの規制・誘導を行ってきました。また、昭和58年には御堂筋パレードが始まるなど、道路空間の利用も多様化し、通行機能だけでなく賑わいや交流空間としての機能も求められるようになりました。そうした背景を受け、平成29年の完成80周年を機に、貴会をはじめ多くの関係者にご参加いただき「将来ビジョン」をまとめました。現在「人中心のストリート」の実現に向け、大阪市により側道の歩行者空間化が進められています。

御堂筋と長堀通は、大阪の成長発展を牽引する都心南北軸と東西軸を構成し、同時に、多くの市民・府民が誇りを持ち、交流し、親しむ「シンボルストリート」でもあります。さらに魅力を増し、持続的に発展していくためには、将来に向けたビジョンを共有しながら、環境の変化に応じた官民連携の取組みが必要です。引き続き、街づくりへの積極的なご参加をよろしくお願い致します。

結びに、貴会の益々のご発展と、会員皆様のご多幸を祈念申し上げます。



渥美連合振興町会長

前田 葉子

街のみんなの幸せを叶える街づくりを

大阪市中央区、特に長堀・心齋橋・南船場エリアは、交通の利便性、安全・安心で先進的な都心部として、近年商業ビル、オフィスビルが増えております。また、地下鉄7号線の延伸に伴う再開発で長堀エリアは地上、地下共に美しく整備され、大丸をはじめ商店街に加えてクリスマス長堀も誕生。生活利便性も高まり、中央区では毎年、年を追うごとに居住人口が増えております。

区政会議に出席して新住民の方々が中央区に住まいを移した理由をきくと、「交通の便が良い・買い物に便利・おしゃれで安全、安心な街」、だから「ここに住みたい」と言われます。都心回帰という現

象もあるでしょうが、こうした街の魅力に大きな影響を与えたのは、40年という長きに亘り、粘り強く街づくりの提言を続け、放置自転車対策や清掃活動など環境改善に取り組んでこられた「21世紀の会」の活動を忘れることはできません。成松前理事長をはじめ、多くの会員さんのご尽力には頭が下がる思いです。

20年前からは御堂筋の再編に取り組み、ナンバから新橋交差点までの歩道の拡幅工事が進められ、難波寄りには既に広くておしゃれな歩道空間が出現しています。しかし、側道を潰して歩道を広げたため、交通渋滞がひどくなり、またタクシー乗り場も遠くなり、住む人からは「不便になった」というお声も聞こえてきます。メイン道路の背後には、住民の生活があります。渋滞は後ろの生活道路が抜け道となり、生活道路の安全を脅かさないか大変心配です。街づくりは、働く人、訪れる人、住もう人、大人も子供もその街のみんなの安全、安心、防災、幸せを叶えるものでなければなりません。その意味で、街づくりは官と民が連携し合うことが非常に大切なことであると思います。



大阪市副市長

高橋 徹

創立40周年、おめでとうございます

「NPO法人 御堂筋・長堀21世紀の会」におかれましては、この度設立40周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴会は1982年の設立以来、長堀・心齋橋・南船場エリアにおける街づくりの提言、イベント運営、環境保全美化清掃など、地域発展のための多彩なまちづくり活動を積極的に実践されてきました。

ここ数年は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う行動自粛もありましたが、長堀通や御堂筋の賑わいを見ておられますと、貴会のめざす「大阪らしい賑わいと感性の高い都市空間を創出し、国際集客都市・大阪の都心にふさわしい「おしゃれな大人の散歩まち」が具現化されてきたものと感じるとともに、会員の皆様方のまちづくりに対する熱意と努力の賜物であると深く敬意を表する次第です。

近年では、2017年5月に御堂筋の完成80周年を迎えたことを契機に、貴会を含め各種団体や行政が一体となり「御堂筋未来ビジョン」を策定し、公民連携のもと世界最新モデルとなる人中心ストリートをめざして側道の歩行者空間化を推進しており、2022年10月には新橋交差点までの側道を閉鎖し、整備に着手いたしました。

全国的にも道路空間の賑わいや魅力向上といった機運が高まっており、本市でも2021年に全国初の歩行者利便増進道路[通称:ほこみち]の指定を行ったところ。このような中、側道閉鎖により広がった空間を活用した社会実験(御堂筋チャレンジ2022)において、貴会には道路協力団体として将来の歩行者空間の利活用や魅力の創出に向けて、地域と一体となって取り組んでいただきました。

近年はコロナ禍で会の活動もままならない状況下でも、クリスマスミネーションの開催や花壇の手入れ等を継続されており、これからも道路空間の高質化とともに、更なる魅力発信を共に進めていけることを期待しております。

2025年には、大阪・関西万博が予定されています。公民連携により、インバウンドを含めた都心の一層の賑わい醸成や市民や企業が誇りに思える御堂筋・長堀とするべく、引き続きのご支援、ご協力をお願いするとともに、今後の貴会のますますのご発展と皆様方のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げます。



元大阪府副知事

小河 保之

会への期待と私のかかわり

創立40周年おめでとうございます。

1982年創立以来、長堀・心齋橋地域の街づくりに、地域の立場からいろいろと提言・要請さらに事業実施にあたって協力を行ってこられたこと、また現在も御堂筋を「車中心から人中心の道」の「パークストリート構想」を推進するのに積極的に参画して活動されていることに敬意を表します。

私と当会との出会いは、今から18年ほど前、当時心齋橋で宝石店を経営していた高校時代の親友・尼崎君が、府の土木部長だった私をこの会の新年会に招待してくれたのが始めでした。彼は若くして亡くなりましたが、心齋橋や御堂筋に思いの強かった彼との約束もあり、その後の副知事就任後も時々懇談会に出席させてもらっていました。もともと、生まれ育ちが南区の空堀周辺で、心齋橋は身近な存在だったこともあり、副知事退任後、成松元理事長から顧問就任を依頼されましたのを機に、少しでも役立てばとの思いで街づくり部会に出席することを引き受け、今に至っております。

現在、御堂筋は、南から順次側道が歩道化されてきて、今後この会の関与している区間についても、社会実験が進められ、会が求めている「おしゃれな景観」の実現に向かっていくことは、嬉しい限りです。

私は、府庁勤務当時、道路・河川など公共施設で美化緑化活動などを地域の皆さまとの協働で行う「アドプトプログラム」を進めていました。その時、「行政が行っている管理の仕事を、ただ単に地域の人にしてもらうのではなく、地域の皆さまが、主役として地域のためになるように楽しく活動してもらうことが大事で、行政はそれを支える演出家や裏方であるべき」と話していました。

当会においても、単に市の代理で道路管理の仕事をするのではなく、行政と共に、演劇などにおける演出家のように、世界に誇れる御堂筋を創り出すことに全力を注ぎ、御堂筋で地域住民や沿道地権者などの皆様と一緒に、主役として活動出来るよう、引き続き積極的に提言・要請し、事業実施にも積極的に協力して欲しいものです。私も微力ですが協力させていただきます。

「何もしないで！」から道路協力団体まで、40年。

何もしないで!

「御堂筋パレード」も、当会の「長堀カーニバル」も始まったのは1983年秋。大阪に「御堂筋パレードに協力したい」と申し出たが、「何もしないで! 何もしないことが一番の協力だ!」と断られた。40年前は、道路の主役は車だった。

長堀通よりインパクトが強い御堂筋をきれいに世界に発信すれば、大阪全体の活性の大きな起爆剤になると、執拗に、情熱的にそう言い続けたのが、今、相談役の成松氏。

企業集団は様々な分野のプロ集団。建設、建築、デザインなど専門分野の会員企業が本格的な提言書を何度も作成し、御堂筋を「車の道から人の道へ」再生することを提案。その集大成が2014年に発表した『御堂筋の将来像ー世界に誇るブランドストリート MIDOSUJI』である。これを広く産学官の各界に訴え、シンポジウムや講演会を開き、御堂筋街づくり3団体で「御堂筋パークストリート(案)」を大阪市に提案した。

そして2019年3月、大阪は、御堂筋100周年の2037年には御堂筋の『フル

モール(人中心の空間)化』構想を発表。続いて国は「ほこみち(歩行者利便増進道路)」と「道路協力団体制」を制度化した。

そして、今

この2つの制度は、民間の自発的な活動を促す点で、公民協働時代の重要な制度と言われ、道路協力団体に認定された当会は、御堂筋(ほこみち)で歩道の利活用を計画実施することが可能になった。

「何もしないで!」から40年、道路の新しい時代が今、ようやく始まろうとしている。



元・副理事長

永井 俊行(談)

地下鉄路線名に託した地元の悲願 《長堀鶴見緑地線》はこうして決まった

40年は、あっという間。いろんな役に就いたけど、忘れられないのは事業開発室長の時。カーニバルの資金集めに3か月間、仕事そっちのけでそごうの藤井さんと企業を回って1千3百万円集めました。この時いろんな人にお世話になり、いい勉強になりましたね。

この直後に地下鉄は「平成3年に工事着工、8年に開通」と発表されたが、問題は路線名。地下鉄開通は、この地域の30年来の悲願だったから、『愛称は長堀線に』の署名活動をしたり、何度も交通局(当時)に「御堂筋線、堺筋線…、みんな道路の名前がついているんだから、長堀線にすべきだ!」と掛け合ったが、「この線は鶴見緑地線の延伸工事だから、名前の変更は難しい!」の一点張り。成松理事長と僕はあきらめられずに何度も行った。ついにしびれを切らして僕が「何が難しい? 簡単でしょ。前に《長堀》を足したら《長堀鶴見緑地線》になるやん」と言うと、やっと「長堀鶴見緑地線」で納得してくれた。うれしかったね。地域の夢を叶える動きが一つ実った。この喜びがボランティア活動の報酬ですよ。私が生忘れる事の出来ない副理事長時代の思い出の一つです。



専務理事

大島 弥生

「おしゃれな大人の散歩まち」 女性に人気の街にならないとネ

当会での活動、大島内科医院としては40年、私個人としては26~7年ですかね? 今では「超・古株」になってしまいました。この間いろんな事をしましたよ。変わったものでは、禁煙キャンペーン? のティッシュペーパー配り、自転車道の社会実験では、ヘルメットかぶって、棒を振っての自転車道への誘導(正直、御堂筋でこの格好は知り合いには見られたくなかった~。「弥生ちゃん何してるの?」って怪訝な目をして言われました)。イベントでは、ショーウィンドーコンテストや芦池小学校跡地でのお茶会(野点)、島之内教会や劇場での「大きな家族のクリスマスコンサート」。どれも準備は大変でしたが今となっては楽しい思い出です。

「今の社会、女子パワーが必須!」との事で、当会にも2018年女子部会「長堀♡なでしこ部会」が誕生し、新橋交差点の花壇活動や手作りのクリスマスイルミネーション、御堂筋4団体での合同女子会も開催されることになりました。「おしゃれな大人の散歩まち」にこのエリアがなるためには、女性に人気のある街にならないと駄目だと思います。居心地の良い場所、もっともっと魅力ある街になるよう、今後も会の女性メンバーと一緒にいろんなことにチャレンジして行きたいと思います。



前・環境美化部会長

山内 一郎

ゴミは世相を映す鏡 掃除はボランティア活動の屋台骨

清掃活動は1984年7月に始まりました。当時の長堀通りは精気がなく煙草の吸殻、食堂の残飯、猫の死体まで捨ててあった。やがてコンビニが増えると空き缶やパンの袋、弁当容器が散らばり、長堀再開発で街がきれいになると人の往来が増え、路面にはガム跡がいっぱい、放置自転車や不法看板が増えて『追放キャンペーン』もやりました。今そんな38年を振り返り、つくづく「ごみは世相を映す鏡」だと感じています。

40年も前は、街づくりといっても「何をすればいいの?」という時代。そこで「とりあえず掃除に参加して!掃除は気持ちいいですよ」とお誘いしました。

ボランティアは人の参加が基本ですから、手ぶらで気軽に参加できるように掃除道具は全て用意したところ、掃除は大賑わい。街を掃除すると街の事情が見えてくる、一緒に汗を流すと連帯感も生まれます。そういう意味で掃除活動は、街づくり活動の土台、屋台骨になっています。

この土台が持続できるのは、大阪市環境局のサポート、社員さんを参加させてくれる企業のご理解など、多くの方々のおかげです。改めて皆様に感謝いたします。



副理事長・広報部会長

森浦 徹

編集後記

当会は、2022年2月に40周年を迎え、どうかその年度内に、40周年記念特集号を皆様にお届けできましたことに、“ホッ”としております。

過去には、10年毎に3回、記念出版物(A4・50ページ冊子)を発行してまいりましたが、諸般の事情から40周年記念出版は見送りとなりました。

しかしながら会員企業様が長年にわたっての無償の奉仕活動と専門的なスキルを投入して頂いて、今日まで街づくり活動が持続できた、その歴史の一端を残しておくべきだと考え、急遽、このレポートの発行に至りました。

限られた紙面故、お伝え出来なかった活動歴の数々、皆様の膨大な労力や思いを載せられませんでした。申し訳ありません。

最後に、ささやかな弊紙に、身に余る祝辞をいただきました皆様にありがたくお礼を申し上げます。

御堂筋・長堀の
街づくり40年

お宝写真館

NPO法人 御堂筋・長堀21世紀の会



旧長堀通駐車場（心斎橋・三休橋間路面）で1983年から10年続いた長堀カーニバルは、土日の2日間で10万人を集める大イベント。長堀通は8車線、真ん中に駐車場がある50m道路。西行き4車線は車で埋まっていた。

初めに公園構想ありき
長堀通公園計画(案)



当時の大島市長を訪問し、提言書の説明をする3代目理事長の春木洋次さん。

長堀再開発の構想として提案した「長堀大通計画案」は、雪まつりで有名な「札幌大通公園」がモデルだった。



ルイヴィトンやシャネルなど15店舗がクリスマス前の2週間、街の人の投票数で店舗デザインを競った。写真はダンヒルのショーウィンドー



1999年から2002年まで、海外ブランドと地域企業が一緒にクリスマス・ショーウインドフェスティバルを開催。

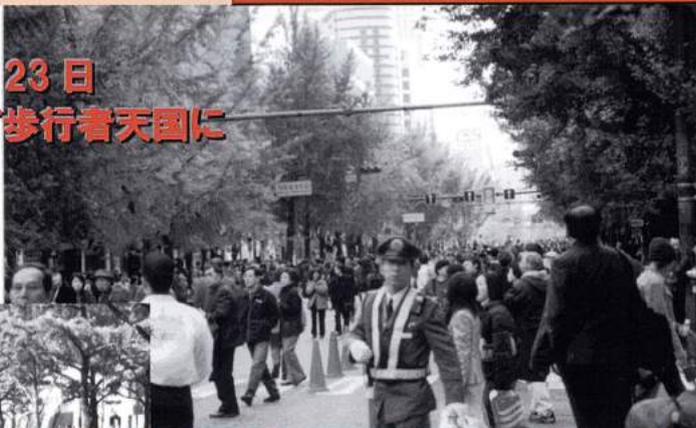


カーニバル会場で、地下鉄7号線の愛称を「長堀に」と署名活動

クリスマスイベント
Xmasショーウインドフェスティバル & Xmasハーモニー

2003年11月23日
御堂筋が初めて歩行者天国に

わずか3時間の
ホコ天に人
出は21万人



当会提案の「アートフリンジフェスティバル（2003年10月）のファイナルイベントとして発想・企画したのが御堂筋の歩行者天国『御堂筋フェスタ』（後にジョイフルとなる）。その第一回目は、2003年11月23日に社会実験として実施された。

恒例のクリスマスハーモニー
街のみんなで創る大きな家族のクリスマスコンサートと題し、ゴスペルや地元の様々な合唱団が島之内教会・大丸劇場でゲスト出演。



心斎橋筋だんさん・こいさん合唱団



1990年代。整備前の長堀通。歩道を埋めた放置自転車・バイク、不法看板。警告だけでは効果なく「禁止区域に指定」を市に要請。

集まって賑わって
人も元気、街も元気



ビアパーティ



2000年頃の新年互礼会



左・元国交省事務次官 谷口博昭氏
右・(株)大丸社長時代の奥田 務氏



口を出し 手を出し 知恵を出し合って



2019年1月 新年互礼会を終えて記念撮影